

# MAENAN SAH Journal Vol.3

～『自分で考え、判断し、行動できる生徒の育成』をめざして～ June 15th, 2023

令和5年度より、群馬県教育委員会から『SAH (Student Agency High School)』の指定を受け、『自ら考え、判断し、行動できる生徒』の育成を目指します。『予測困難な時代』のなかで『生きる力』を育むため、『認知能力』に加え、『非認知能力』の育成に取り組みます。  
\*Agency・・・自分の人生および周りの世界に対して、よい方向に影響を与える能力や意思を持つこと

## 群馬県立前橋南高等学校2023グランドデザイン



『前南グランドデザイン』のなかの

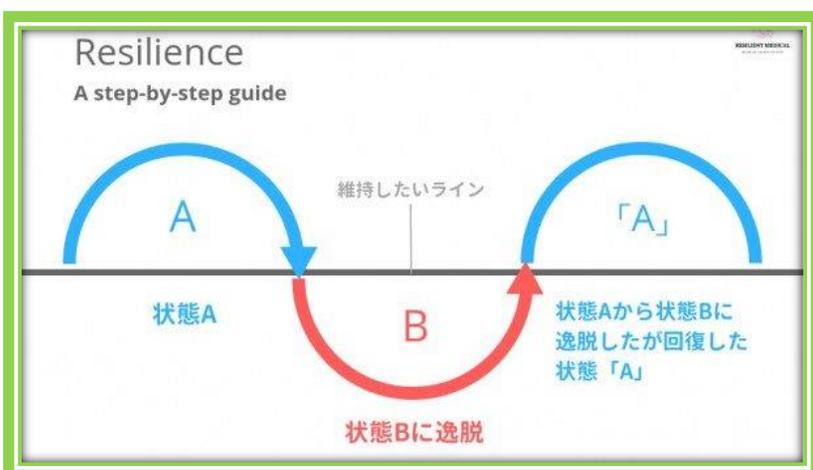
『2つの非認知能力』について

考えてみよう!!!

## 『Resilience (レジリエンス)』って知ってる？

『レジリエンス』とは、簡単にいうと、『失敗や困難で心が折れそうになっても、そこから回復する力』、それは、『誰もが持っていて、育てることができる力』です。みなさんにぜひ『意識』してもらいたい『生きる力』のひとつです。言い換えれば、『精神的回復力』になります。最近目にする回数が多くなってきましたので、紹介します。

強い心というと、何があっても動じないタフな精神力を想像しがちですが、そこまで強靱な気持ちを持つことは難しいもの。その人の資質や性格などにも大きく左右されます。大人でさえ、どんなときも「折れない心」の持ち主というのは、多くはないはず。



誰でもつらい状況や困難に直面することがあります。気持ちが落ち込み、ストレスに押しつぶされることもあるでしょう。そういうときでも、『レジリエンス』という心の回復力さえ『意識』していれば、一度落ち込んだところから立ち直って、そこからどうするかを考えることができるようになります。『意識』次第で、『育てることができる』のです。

『レジリエンス』を例えて言うなら、『頑丈な大木』というよりも『しなやかな竹』のイメージ。一見、頑丈な心でも、大木が強風に耐えきれず折れてしまうように、思いもかけないタイミングでポキッと折れてしまうことがあるかもしれません。一方、『竹のような弾力性、柔軟性を持つ心』であれば、どんなに逆境に押し倒されてもやがて『ゆっくりと立ち上がる』ことができるのです。『立ち直るスピード』は人それぞれで構いません。

人が目標に向かって真剣に取り組んでいる際に、『困難』や『失敗』は当然生じてくるものです。『避けては通れないもの』と言っても過言ではないでしょう。当然、うまくいかなければ『落胆』します。したがって、そんなときこそ『レジリエンス』を鍛えるチャンスなのです。本校グランドデザインのなかの『粘り強く取り組む力』『困難を乗り越える』も同様な性質をもつ力と言えます。まずは『竹のようなしなやかな回復力』を『意識』することから始めてはいかがでしょうか？『ゆっくりと立ち上がる』イメージでよいのです。 文責：星野 亨（教頭）



### ★校長より★

皆さんは「けんか」をしたことはありますか。けんかと言わなくても「意見や考え方の違い」から対立したことはないですか。小・中・高を通して、学校でそれが起こると、先生が仲裁に入り、拳げ句の果てに仲直りまで仲介する。学校あるあるですね。でも、これでは自分で解決したことにはならず、人間関係の構築の仕方や、感情コントロールの仕方、自己効力感など身に付くはずがありません。このままでは大人になっても壁に当たると、「あいつが悪い」「社会が悪い」「国が悪い」と他者のせいにするだけで、自分では何もできない大人になってしまう。そんなの嫌ですよ。 「レジリエンス」今から始めましょう。

校長 関根 正弘